



スマホ・手帳

賢く二刀流

今年も翌年の手帳を準備する季節になってきた。スマートフォン(スマホ)を日々のスケジュール管理に使う人も多くなったが、従来の紙の手帳の販売もしぶとく伸びている。スマホと併用する「二刀流」の人には、一覧性の高さなど「アナログ」ならではの良さを打ち出した手帳が好まれているようだ。

手書きと連動

細かい予定 デジタル管理

紙も健在、来年用の販売好調

にぎわい始めた小売店の手帳売り場で販売が好調なのはページの構成がマンスリー(月間)タイプの手帳だ。1カ月分のスケジュール欄とメモ帳などが付いたものが主流。生活雑貨店のロフトでは2014年向けのマンスリー手帳の売れ行きが前年比4%増だ。

5割が併用希望

福岡県久留米市在住の西川菜穂子さん(22)も紙の手帳とスマホを併用して予定を管理している。「紙の手帳は月間の大まかな予定を把握するために使い、スマホは時間などを細かく入力して使う」という。

大手の手帳メーカーによると、スマホの普及に伴って「紙の手帳は先の予定なども一覧で見やす

専用のペンとノートで書いた文字がスマホに転送される(東京都葛飾区)

いマンスリータイプが売れ筋になってきた。例えばコクヨの「キャンパスタイアリー」(300円台から)は月や週ごとに見開きで一覧できるタイプの手帳で、前年比1割増の売れ行きだ。日本能率協会マネジメントセンター(東京・港)もイラストなどが描きやすい方眼野(けい)が入ったタイプが好調という。同社の調査によると14年にスケジュール管理のために、手帳などのアナログとスマホなどデジタル機器を併用しようとする

えている人は全体の56.6%だった。調査は8月に20〜50代の1653人を対象に実施した。13年の利用実績と比較して21.8%上昇した。手帳市場は明確な統計がないものの年間で1億冊前後が出回っているとみられる。企業の経費削減もあり法人向けの販売は落ち込んでいるが、個人向けは堅調だ。

クラウド活用

商品とは昨年あたりから文具・手帳各社から多く発売されてきた。まずスマホアプリをダウンロードして手帳を撮影し、内容をスマホで管理できるといった商品が一般的。ただこうした商品は話題を呼ぶものの「実際の売れ行きは鈍い」(手帳メーカー)。

一方で来年に向け注目を集めているのは書いた内容を、インターネットのクラウド上で保存できる高機能のペンだ。都内の企業に勤める土肥雅浩さん(47)が会議などの時に手放さないのが、米ライブスクライプ社製の電子ペン(1万8800円)だ。通常のペンのように専用ノートにメモするとペン自体が何を書いたかを記憶する。

ペンからデータをクラウドサービスなどに飛ばし、スマホから書いた内容を確認できる仕組みだ。土肥さんは「過去のノートなど資料を大量に持ち歩く必要もなく、いつの会議でどんなことを話したかすぐにわかるのが便利」という。